

平成 21 年 3 月、教育委員会から学校の再編計画が発表され、土肥地区の小中学校が平成 22 年 4 月に再編、中伊豆地区の小中学校は平成 23 年 4 月再編に向けて準備が進められています。天城地区においても、平成 24 年 4 月を目途に、3 校を 1 校にする小中学校の再編計画が表示され、22 年秋には学校再編の中心となる準備委員会が組織され、校地・校名など新しい学校のよりよいあり方が検討されようとしています。

計画が発表された当初より、幅が長い天城地区の小中学校の再編計画は、校地の選定について困難が予想され、平成 21 年度の小中学校 P T A 役員等を中心に、年度当初から、この再編について、協議を続けてきました。広く意見を聴取するため、小学校保護者へのアンケートを実施しました。

天城地区の学校再編にかかる上申書

こうした中、平成 22 年 2 月、廃校の危険を感じ、湯ヶ島小 P 会長より、湯ヶ島小学校の存続、基本計画のやり直しを要請する文書を市関係者に提出し、存続意欲の強い表れが示されました。しかし、こうした流れでは、地域にすれ違いが生じ、再編の協議が進まず、地域、学校、保護者、特に子供達（児童・園児）に迷惑がかかると、新年会（平成 22 年度）小中学校 P T A 役員等にも協議に加わっていただき、天城地区として再編の協議には、「協力して進みたい」「よりよい方向性を導きたい」との考えに、準備委員会の前に協議する組織が必要と、教育委員会に相談し、自主的な検討会組織を立ち上げることとしました。

また、同時に、準備を進めていた地域の意見・提案を伺うため、21 年度の区長様にお預りし、年度末のお忙しい時期でありましたが、随時や役員会等で地域の意見の集約にご協力いただき、検討会への重要な資料としてまとめました。

平成 22 年 6 月、地域の代表、学識経験者、園小中の P T A 役員等で検討会が発足しました。園・小学校保護者を対象にした説明会の開催や園へのアンケートの実施、会議では、再編の必要性、地域への影響など協議しながら進めてきました。通学に対する不安は大きく、スクールバス確保、安全対策の実施など再編へ向けての課題があげられました。

平成 22 年 9 月 30 日

期限もせまり、検討会としての協議は、まだ、十分ではありませんが、再編を進めるにあたって皆様からいただいたご意見・ご提案を附し、検討会で決議された事項について上申します。教育委員会へご意見を提出し、再編計画をさらに進め、よりよい学校再編としたいと考えています。

天城地区学校再編検討会

平成 23 年 9 月 30 日

天城地区学校再編検討会会長 内 田 和 昌

平成 21 年 3 月、教育委員会から学校の再編計画が発表され、土肥地区の小学校が平成 22 年 4 月に再編、中伊豆地区の小学校は平成 23 年 4 月再編に向けて準備が進められています。天城地区においても、平成 24 年 4 月を目途に、3 校を 1 校にする小学校再編計画が表示され、22 年秋には学校再編の中心となる準備委員会が組織され、校地・校名など新しい学校のよりよいあり方が検討されようとしています。

計画が発表された当初より、縦が長い天城地区の小学校の再編計画は、校地の選定について困難が予想され、平成 21 年度の小中学校 P T A 役員等を中心に、年度当初から、この再編について、協議を続けてきました。広く意見を聴取するため、小学校保護者へのアンケートの実施、また、地域の大きな問題として意見を伺いたく、準備を進めました。

こうした中、平成 22 年 2 月、廃校の危機を感じ、湯ヶ島小 P 会長より、湯ヶ島小学校の存続、基本計画のやり直しを要望する文書を市関係者に提出し、存続意識の強い表れが示されました。しかし、こうした流れでは、地域にすれ違いが生じ、再編の協議が進まず、地域、学校、保護者、特に子供達（児童・園児）に迷惑がかかると、新年度（平成 22 年度）小中学校 P T A 役員等にも協議に加わっていただき、天城地区として再編の協議には、「協力して進みたい。」「よりよい方向性を導きたい。」との考えに、準備委員会の前に協議する組織が必要と、教育委員会に相談し、自主的な検討会組織を立ち上げることにしました。

また、同時に、準備を進めていた地域の意見・提案を伺うため、21 年度の区長様にお願ひし、年度末のお忙しい時期でありましたが、総会や役員会等で地域の意見の集約にご協力いただき、検討会への重要な資料としてまとめました。

平成 22 年 6 月、地域の代表、学識経験者、園小中の P T A 役員等で検討会が発足しました。園・小学校保護者を対象にした説明会の開催や園へのアンケートの実施、会議では、再編の必要性、地域への影響など協議しながら進めてきました。通学に対する不安は大きく、スクールバスを視野に入れた通学バス路線の確保、安全対策の実施など再編へ向けての課題があげられました。

期限もせまり、検討会としての協議は、まだ、十分ではありませんが、再編を進めるにあたって皆様からいただいたご意見・ご提案を附し、検討会で決議された事項について上申します。教育委員会におかれましては、地域や保護者との協議をさらに進め、よりよい学校再編となりますよう強く要望します。

平成 22 年 9 月 30 日

天城地区学校再編検討会会長 内 田 和 昌

天城地区の学校再編について、当検討会において協議された事項を上申します。
今後とも、十分な協議を進め、説明会や広報等を通じ、経過などの進捗状況を市民に周知願いたい。

1. 再編の必要性

小学校再編は、概ねが賛成の方向であるといえる。
だが、再編に対し、現状を望む声、校数の検討を望む声もある。
十分な協議が必要だが、子供たちを第一に考え、進めていただきたい。
また、廃校がその地域の人口減の起因とならないよう、通学体制も含め、市として、定住化や職場確保対策など前向きな施策を要望する。

2. 再編の時期

再編が実施の方向で進む場合は、概ねが早期実施を希望している。
通学に伴う安全面の確保、学校の施設整備を、再編前に整えることを望む声が多い。候補地別とは思われるが、再編までの必要とする期間の提示が早期に必要。

3. 再編する校地

計画では、3校を1校に再編するとなっている。子供が多い環境の中で育てたいとの意見が多いが、地域性・利便性から2校を望む声もある。

校地の選定は、人口・地理・学校環境・生活圏など様々な視点から検討することが必至であり、あわせて、候補地となる3校、それぞれ、将来図や条件など、校地を選定するための具体的な資料を必要とする。

以下の書類は会議で配布した資料のとおりで、
今回は省略しました。

園のアンケートは、まとめ中です。